

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	24-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Racial and ethnic disparities in alcohol-associated liver disease in the United States: A systematic review and meta-analysis アメリカにおけるアルコール関連肝疾患の人種および民族間の差異： 系統的レビューおよびメタアナリシス		
執筆者		
Anouti A, Seif El Dahan K, Rich NE, Louissaint J, Lee WM, Lieber SR, Cotter TG, et al.		
掲載誌		
Hepatol Commun. 2024 Mar 18;8(4):e0409. doi: 10.1097/HC9.0000000000000409.		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患 (ALD)、人種、 システマティックレビュー、メタアナリシス	38497931	
要 旨		
<p>背景： アルコール関連肝疾患 (ALD) は、アルコール関連の肝炎/肝硬変を含み、米国で増加傾向にある。ALD には人種・民族間の差異は見られるものの、詳細は十分に明らかにされていない。</p> <p>方法： PubMed/MEDLINE および EMBASE データベースを検索し、米国における ALD の発生率、有病率、死亡率を人種および民族別に報告した研究を、データベース開始から 2023 年 9 月までの期間で特定した。人種および民族別の統合有病率および発生率を計算し、ALD の統合有病率およびアルコール関連肝炎/肝硬変の統合割合に関するリスク比およびオッズ比、ならびに ALD 死亡率のオッズ比を、ランダム効果モデルの DerSimonian-Laird 法を用いて算出した。</p> <p>結果： 合計 25 件の研究 (うち 16 件は定量的メタアナリシス) で、76,867,544 人を対象とした。ALD の有病率はヒスパニック系 (4.5%) が最も高く、次いで白人 (3.1%)、黒人 (1.4%) の順であった。ALD 有病率の統合リスク比は、ヒスパニック系で 1.64 (95% CI: 1.12-2.39)、黒人で 0.59 (95% CI: 0.35-0.87) と白人に対して有意差が見られた。ALD 患者の死亡率は、7 つの研究 (n=542,126) で評価され、白人と比較して、ヒスパニック系 (OR: 1.54, 95% CI: 0.9-2.5; $I^2=0\%$)、黒人 (OR: 1.2, 95% CI: 0.8-1.6; $I^2=0\%$)、ネイティブアメリカン (OR: 2.41, 95% CI: 0.9-2.9) の間で有意差が見られなかったが、アジア系 (OR: 0.1; 95% CI: 0.03-0.5) でのみ有意な差が確認された。ほとんどが横断研究であり、研究の質は低～中程度と評価された。</p> <p>結論： ヒスパニック系で有病率が高く、黒人で有病率が低い傾向があり、人種や民族による違いが観察されたが、ALD の死亡率に関する差異は比較的小さかった。ALD の有病率や予後については既存データでは十分に明らかにされておらず、今後質の高い追加研究が必要である。</p>		